

## 琴平町公会堂

1934年に建てられた琴平町公会堂は、東アジア諸国の多くで用いられた伝統的和風建築様式である入母屋となっています。この様式では、屋根が4つの側面すべてに傾斜しており、向かい合う2面にある切り妻で結合します。これは通常、前面と後面それぞれに傾斜した大きな屋根部分と、両側面の小さめの屋根部分からなります。この建築様式は、日本の仏教寺院や神社、官邸や城廓、民家でも未だに広く使われています。縄文時代の建造物がこの様式が用いられた最古の例であり、日本の有名な建造物の多くにも使われています。

建物の側面に伸びる切り妻が最も目立つ特徴です。

このように民家の場合では、母屋造と呼ばれます。琴平町公会堂は木造の建物で、板葺きの大きな切妻屋根、要人用の入り口棟、和室を備えた母屋が特徴です。美しい木造の板葺き屋根は、日本で由緒あるもので、その歴史は法隆寺まで遡れます。ホールには300人収容可能な大きなスペースがあります。コンサートやその他の地域イベントがここや、四季により変化する景色を楽しむ庭園で、定期的で開催されています。